経営学部 創立60周年記念行事

6月18日（土）生田キャンパス

経営学部は、我が国のマネジメント研究の黎明期である1962（昭和37）年４月に産声をあげ、今年４月に創立60周年の節目を迎えた。経営学部では、６月18日（土）に生田キャンパスで記念行事を予定している。60周年を契機として、在学生、卒業生、教職員間のつながりを強くし、ヒューマン・ネットワークの更なる発展を目指す。

記念行事では、タレントの小堺一機氏（昭54卒）が「水の如し」と題した基調講演を行うほか、「アフターコロナの新しい働き方――ダイバーシティ＆インクルージョン――」を統一テーマに、教員・卒業生ら24人による「経営学部再入門セミナー」を開講する予定である。

▼日　　時：６月18日（土）13時～18時
▼場　　所：生田キャンパス10号館
▼参 加 費：3000円
▼申し込み：経営学部創立60周年記念行事特設サイト（ＱＲコード参照）からフォームで申し込む
▼申し込み・参加費振り込み締め切り：５月31日（火）

特設サイト

Ⅰ．オープニング（13:00～13:40）

13：10～基調講演　小堺一機 氏(昭54卒)　テーマ「水の如し」

Ⅱ．経営学部再入門セミナー（14:00～15:30）

統一テーマ
「アフターコロナの新しい働き方 ーダイバーシティ＆インクルージョンー」
（専修大学経営学部提供リカレント教育）

メインテーマ	スタート＆スケールアップ「起業家と企業家による事業を創り続けるロマンとリアル」	会場Ⅰ	※会場ごとに前半と後半で二つのセッションを設け、計16人の卒業生講演者が登壇予定
	イノベーション「技術が支えるプロダクト＆プロセスイノベーションの世界」	会場Ⅱ	
	サステナビリティ「持続的発展を可能にするウェルビーイング」	会場Ⅲ	
	コンピテンシー「能力・キャリアを開発する探索と深化のラダー」	会場Ⅳ	

◆お問い合せ　専修大学経営学部創立60周年記念行事実行委員会
✉ m60annive@ml.senshu-u.ac.jp

和洋九段女子高と高大連携協定

私立高校と初　双方向で教育交流

高大連携

専修大学は、和洋九段女子高校（東京都千代田区）と高大連携に関する協定を締結した。今後、双方で積極的な教育交流を行う。

3月28日、神田キャンパスで調印式が行われ、佐々木重人学長と中込真校長が協定書に調印した。

佐々木学長が「本学ではデータサイエンス系の教育プログラムが本格化されるため、お役に立てることも多々あると思う。専修大学にとって一番近い高大連携校になる。どうぞ気楽にキャンパスを散策してほしい」と話すと、中込校長は「データサイエンスやグローバル化、マーケティングなどに興味を持っている生徒は多く、大学のアカデミックな力をお借りしたい」と応えた。

今後は教育交流活動として、高校生が大学の授業を聴講する「高大連携聴講生」の受け入れや、大学生が「教科研修生」として教育現場で研修活動を行うなどの交流プログラムを実施する予定。

本学では、高校と大学が教育交流を通じて相互理解を深め、教育の活性化を図ることを目的に、2003年度から高大連携を推進。今回の協定締結で高大連携協定校は18校目となる。私立高校及び千代田区内の高校との高大連携協定締結は初めて。

協定書を交わす佐々木学長（右）と中込校長

地域とともに

社会貢献活動

地元とのつながり深める

神田で二つのイベント開催

本学では法学部・商学部・国際コミュニケーション学部がある東京都千代田区でさまざまな連携活動を進めている。3月、地元団体主催のイベントが神田キャンパスで相次いで開催された。

12日には、「神田カレー街食べ歩きスタンプラリー2021」の神田カレーマイスター証授与式が10号館黒門ホールで行われ、「カレーの町」神田を愛する方々が集った。

また、神保町映画祭の東京神田ファンタスティックフィルムコンペティション（TKFFC）授賞式が24日、開催され、グランプリの賞状授与と作品上映が行われた。

授賞式に先立ち、千代田区の樋口高顕区長、TKFFC特別審査委員の藤井道人監督らによる座談会が行われ、商学部の渡辺達朗教授が司会進行を務めた。参加者は地域の魅力について語り合い、藤井監督は「千代田区には『撮りたい』と感じる魅力的なロケーションが多い」と述べた。

渡辺教授は「地域の資源を有効活用できれば、映画の作り手と街の人がWin-Winの関係を築ける。大学としても地域とのつながりをより強めていきたい」とまとめた。

渡辺ゼミでは、神保町映画祭と連携して、2021年度にはゼミ生が短編映画を制作。22年度には地域住民を対象にした映画制作ワークショップを企画している。

神田キャンパスでのTKFFC授賞式

6氏に名誉教授称号記

専修大学名誉教授称号記授与式が4月1日、生田キャンパスで行われた。佐々木重人学長、松木健一理事長、日高義博総長らが列席し、次の6氏に名誉教授称号記が授与された。

浅見和彦・元経済学部教授
望月宏・元経済学部教授
小林弘和・元法学部教授
平田和一・元法学部教授
板坂則子・元文学部教授
土生田純之・元文学部教授

インドネシア文化学ぶ

外国語教育研究室オンライン講演会

講演や映画上映などを通して異文化を学ぶ外国語教育研究室主催の研究会が2月18日、オンラインで行われた。60回目となる今回は、「インドネシアと日本の文化交流の現在」をテーマに、経営学部のイメルダ・クットリル兼任講師が講演した。

日本国内でインドネシア語を学べる大学は25校ほどで、本学もそのうちの1校。クットリル講師は本学で初級・中級の講義を担当している。

講演では、日本とインドネシアの交流が映画や音楽、食べ物などさまざまな分野で盛んなことに触れた。一方、「インドネシアでは第2外国語に日本語クラスを設けている中学校や高校が増えているが、日本ではインドネシア語の学習者が少なく、統一したカリキュラムがない」と課題を挙げた。

クットリル講師は、駐日インドネシア大使館が主催する「インドネシア文化の集い」の活動にも参加しており、インドネシアの風土、言語、文化などを解説するとともに、日本で実施されたイベントを紹介した。

宮田宗彦外国語教育研究室長が「今日の話を今後の履修や学習に役立てて」と話すと、土屋昌明国際コミュニケーション学部教授は「友好を深めていくには、民間交流の活性化が重要になる。多くの学生にインドネシア語を学んでほしい」と結んだ。

インドネシアの風土や文化を紹介した

外国語のススメ　外国語教育研究室

―100―

宮田 宗彦
国際コミュニケーション学部准教授
（外国語教育研究室長）

外国語の発音は難しい

外国語の発音は大変習得が難しいと言われます。例えば、日本語にはアイウエオの五つの母音しかありませんが、英語には約15の母音が存在します。猫を意味する英語のcatの発音は/kat/ですが、/a/の音は日本語には存在しませんので、我々は/a/の音を認知できず、日本語で近い音の「ア」に置き換えて「キャット」と発音します。「cat」と「キャット」の発音は実際には異なるのですが、我々にはその違いがなかなか認識できません。

厄介なのが子音です。日本語には14の子音がありますが、英語には24の子音が存在します。我々にとって英語の子音で発音が最も難しいのは/l/と/r/だと言われます。/l/と/r/は日本語には存在しないので、我々は/l/と/r/を独立した音として認知できず、「ラ行」の音に置き換えます。その結果、音の区別ができず、発音に苦労するということになります。また英語では/l/と/r/の音が意味の違いを生み出しますが、我々は音の区別ができませんので、意味の違いをくみ取ることが難しいということになります。たとえばplay（遊ぶ）とpray（祈る）などの言葉を聞き取ることは至難の業なのです。

外国語の学習には母語に存在しない音を新たに学び、覚え、聞き分けることが要求されます。外国語の音声を聞き分けるためには、新たな音声の知覚が必要とされるのですが、我々は母国語の知覚に捉われてしまうので、知覚に新たに変更を加えたり、新たに付け加えたりすることに大変な困難を伴います。外国語の発音はたやすく達成できることではないようです。

（応用言語学〈第二言語習得・英語教育学〉）

短縮版。全文はCALL教室ホームページで。